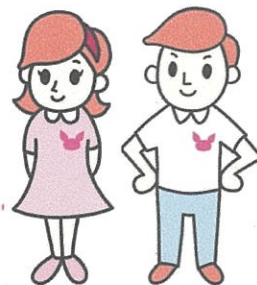


メッセージ

～広島県の未来を担う10代・20代の皆さんへ～



こんにちは、広島県知事の湯崎です。

皆さんは、「献血」についてどのようなイメージを持っていますか？

「献血」というと、「痛そう」「注射器が怖い」などマイナスのイメージを持っている人が多いのではないかと思います。また、「自分には関係がない」「考えたことがない」という人もいるかもしれません。

一方で、皆さんの献血により集められた血液が、約8割はがんなど定期的に輸血が必要な患者さんの治療に使われ、多くの命を救っていることを知っていますか？

このような中で、今一番の問題となっているのが、これからを支えていく皆さんのような若い献血者が減っていることです。少子高齢化が進展する中であって、将来ますます血液が不足し、輸血を必要とする患者さんは治療が受けられなくなってしまうことが心配されています。

血液は生きた細胞なので医療技術が日々進歩している現在でも、いまだに人工的に造ることも、長期間保存することもできません。だから、一人一人の力を寄せ合って継続的に献血に協力していただくことが必要です。

皆さんの「献血をしてみよう」という勇気、そして「献血を継続する」ことで救える命がたくさんあります。いつでも誰かを救えるボランティアは献血です。若い皆さんの力で、広島県の輸血医療を支える一翼を担っていきましょう！！

広島県知事

湯崎英彦

